

## 鏝阿寺（足利市）

ばんなじ 「史跡足利氏宅跡」として国の史跡に指定されており、現在では「日本の名城百選」にもなっている/足利氏の氏寺/これは南側の山門

[video](#)



鑊阿寺は、鎌倉時代の建久7年（1197年）に足利義兼によって建立された/本尊は源氏としての足利氏の守り本尊である大日如来を祀る



元々は足利氏の館で、現在でも四方に門を設け土塁と堀が巡らされており、平安時代後期の武士の館の面影が残されている



これは館を巡る堀に架かる反橋（太鼓門）/江戸時代の再建/栃木県指定文化財/左手は楼門

[video](#)



その説明板



## 楼門ろもん 及び反橋そりばし

楼門は当山では仁王門又は山門という。

開基足利義兼公が建久七年(一九六年)創建せるも室町時代兵火にあい永祿七年(一五六四年)

足利幕府十三代将軍足利義輝の再建である。

構造雄大、手法剛健、入母屋造、行基葺き。

両側の仁王尊像は此の建物より古く鎌倉時代運慶の作といわれている。

反橋は浴に太鼓橋といひ江戸時代安政年間の再修である。

当山境内は面積一万二千三百坪(四〇四六七平方メートル)

四周に濠と土塁をめぐらし四門あり

当山開基足利義兼公の祖父源義国(八幡源義家の子)足利新田両家の祖が別業として平安時代

末に構築せるものにして上古の豪族の居館を原形のまま今日に残したるもの。実に近世城郭の

原始を示しており、足利氏宅跡として大正

十一年国が史蹟に指定した。

楼門及び反橋は栃木県指定文化財である。

真言宗  
大本山 金剛山 鏝阿寺

こちらが楼門（山門）/永禄7年（1564年）の再建/栃木県指定文化財

[video](#)



数々の文化財があるようだ



さて、楼門を潜ると前方に本堂が見える





鐘楼→本堂→不動堂→経堂→大黒堂→大西堂→御霊屋→西門→多宝堂→東門と進んでみよう

こんごうざんばんなじがらんす  
**金剛山鑲阿寺伽藍図**



振り返って、楼門を見たところ

 [video](#)



楼門の脇には土塁が残っている

[video](#)



そこで、左手を見たところ



土塁はこのように続いている

[video](#)



その先にある鐘楼/鎌倉時代建立/重要文化財





文化財愛護

重要文化財

鑲阿寺  
鐘樓

鎌倉時代建久7年(1196)建立

火氣嚴禁

---

HITACHI

和様と唐様の折衷様式





袴腰付



## 鐘楼

一、建久七年（一、一九六年）足利義兼建立

- 一、建築様式 形状簡古、手法稚拙  
鎌倉時代の和様、唐様折衷の代表的禅宗様式、桁行三間、梁間二間、袴腰付、入母屋造、本瓦葺
  - 一、明治四十一年、国宝建造物に指定さる。
  - 一、大正五年 解体修理実施
  - 一、昭和二十六年、国重要文化財に指定さる。
  - 一、昭和三十六年 半解体修理実施
  - 一、平成四五年 半解体修理実施
- 。梵鐘は元祿時代の再鑄であるが戦時の供出は歴史資料としてまぬかれる。

真言宗 金剛山 鏝阿寺

これが本堂（大御堂）/鎌倉時代の再建/国宝



アップで見たところ/和様と唐様の折衷様式/向拝は室町時代の改修時に付け加えられたと云う

[video](#)





文化財愛護  
国宝

鑲阿寺  
大御堂

鎌倉時代建久7年(1196)建立

火氣嚴禁

HITACHI

左手から見たところ/屹立する屋根が唐様（禅宗様）の特徴と云う



大棟



向拝桁隠し



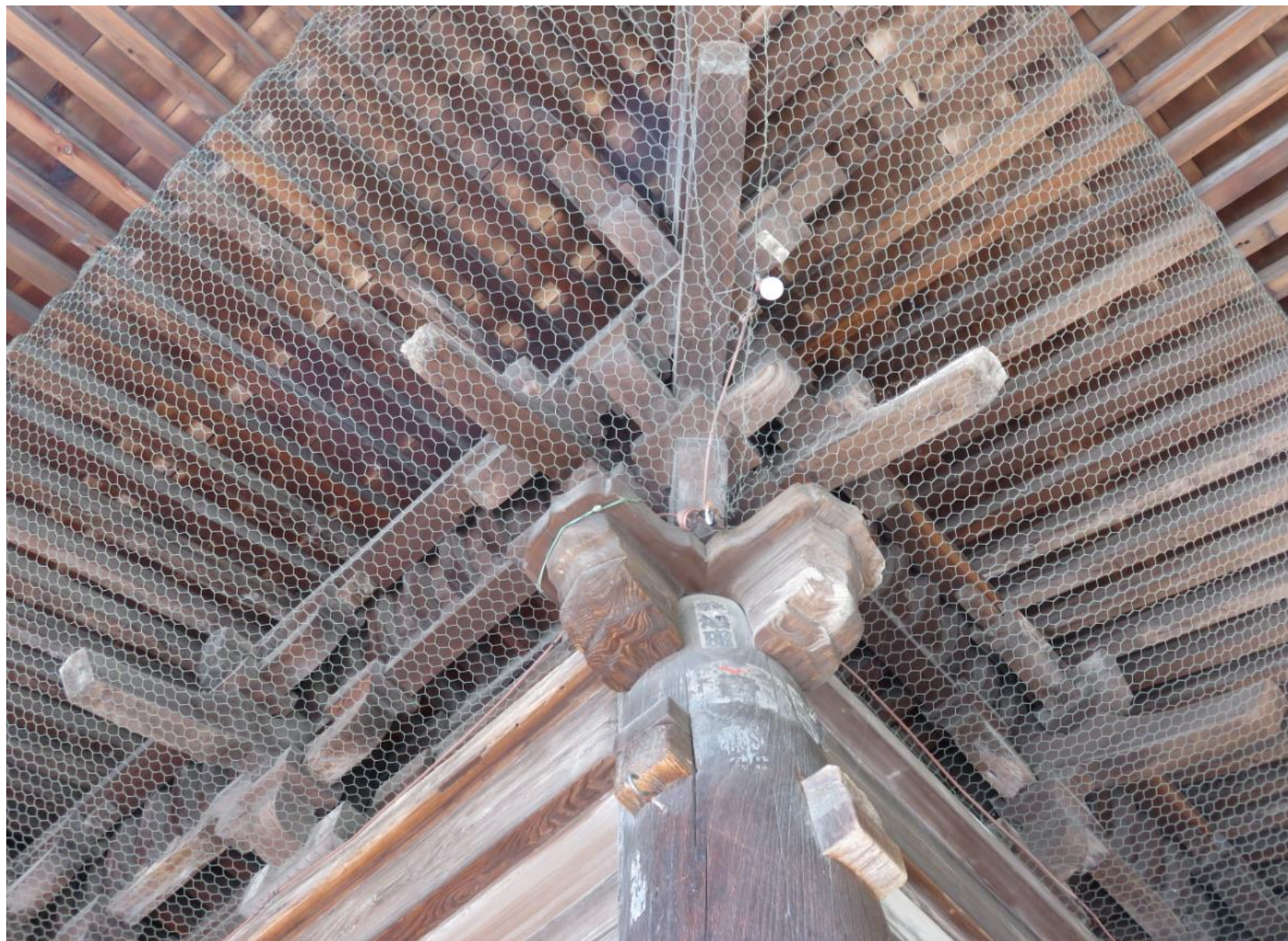


棧唐戸が吊られた本堂正面

[video](#)



隅柱斗拱



向拝虹梁

[video](#)





# 国 宝

## 鍔阿寺本堂(大御堂)

鎌倉時代初期、建久七年(一一九六)に足利義兼建立。正安元年(一二九九)再建。本尊は源氏相伝の守本尊、大日如来。建築は構造雄大、手法剛健、本瓦葺唐様と和様を加味した折衷の代表的な建物で堂内の柱、天井、厨子等の価値は高い。

明治四十一年 国宝に指定され昭和八年より二年間、解体修理を文部省の指導の下 実施した。

戦後、法令改正により重要文化財となる。平成二十五年八月、国宝に指定される。境内に山門、鐘楼、不動堂、一切経堂多宝塔、御霊殿等の七堂伽藍を備えた東国の密教の代表的な寺である。創建以来、幸い火災にあわず多数の重要文化財を蔵している。

開基、義兼七世の孫は足利尊氏にして京都室町に幕府を構え、幕府は十五代二百三十年つづいた。

大祭は五月三、四、五日、十一月三、四日初詣、節分鍔年越し等、厄除・開運の祈願寺として参拝者が多い。

真言宗大本山

金剛山 鍔阿寺

軒は二軒の繁垂木



隅木先端部分



妻面





唐様（禅宗様）の特徴を示す、棧唐戸・縦板張・粽柱・水平材の台輪・柱間にまで密に配された二手先詰組などが見て取れる



室町時代末期までには付けられたと言う、背面の向拝を見たところ



足利義氏は当山開基足利義兼の三男で足利三郎と稱し父義兼の後を嗣ぎ北條時政の女を嫁とし泰時の女を妾とした蔵人檢非違使に任せられ正四位下左馬頭に至り鎌倉幕府の柁機に参画し数次の合戦に大功を立てた

父義兼の菩提のため天福二年(一二三四)現在の重文大御堂を建てたことは現存する棟札によって明らかである又堀の外大日境外に東に六字院不動院普賢院東光院北に浄土院宝珠院威徳院延明院西に金剛乗院千手院竜福院安養院の塔中十二ヶ院を建立し千手院を塔頭とした明治四年(一八七一)の廢仏毀釈により十二ヶ院が廢せられ一般民家に解放される迄六百余年この山地は続いた今の家富町全域がこれである

仁治二年(一二四一)五十三才で出家し足利左馬入道と稱し建長六年(一二五四)十一月二十二日六十六才で卒した本城三丁目にある法樂寺は義氏の開基であり同寺に義氏の墓地がある謚を法樂寺殿正義大禪門と云う義氏五代の孫足利尊氏に至って天下を平定し京都に幕府を開き室町文化の華を咲かせたことは普く人の知るところである

これは不動堂（中御堂）



# 中御堂（不動堂）

寺伝では開基足利義兼公の創建とあるが、文祿元年（一五九二年）生実御所国朝の再修になる。御本尊不動明王は往古千葉県成田山より勧請せるもので興教大師の作といわれ靈驗あらたかな不動明王である。

本堂が明治四十一年国宝に指定される迄は不動堂と廊下でつながっていて四度加行（けだうぎょう）の護摩法の道場として使用した堂宇である。

昭和四十四年信徒の浄財により半解体修理を実施した。

商売繁昌を祈念する堂であると同時に酉年守本尊なり。

堂の右側に古井戸の跡あり八百年前足利氏が居住した時に使用したといわれる。

真言宗  
大本山

鍔阿寺

こちらは経堂/室町時代の再建/重要文化財

 [video](#)





文化財愛護

重要文化財

鑲阿寺

經堂

室町時代応永14年(1407)建立

火氣嚴禁

HITACHI

## 国指定重文 経堂

当山開基、足利義兼が妻の供養の為  
一切経会を修する道場として鎌倉時代に  
創建したといわれるが、現在の建物は  
応永十四年（一四〇七年）関東管領  
足利満兼により再建された。  
足利家は鎌倉・室町の両時代に盛んに  
一切経会を営んだ事が当山古文書  
（国重文）にみられる。  
堂内に八角の輪蔵（経棚）があり一切経  
二千余巻を蔵するが、此の経棚は江戸時代  
宝永年間の大修繕のものなり。  
昭和十一、二年 文部技師阪谷良之進の  
指導の下、解体修理を実施した。  
昭和五十九年 国重要文化財に指定さる。  
平成十六、七年 屋根を主に文化庁  
指導の下、大修繕を実施。

真言宗金剛山  
鏝阿寺



右側面から見たところ



不動堂（右手前）と本堂（左奥）を見たところ/ここが足利氏宅跡の中心部

[video](#)



こちらは御霊屋/江戸時代の再建/栃木県指定文化財



安田工務店によって半解体修理されたと記されている

## 県指定文化財 御霊屋

足利大権現と称し、俗に赤御堂とも云う  
正和年間(一三二二年)の当山伽藍配置図にも  
境内西北に描かれている。  
創建は鎌倉時代といわれるが、現在の建物は  
徳川十一代將軍家斉の寄進によって再建された。  
本殿に源氏の祖を祀り、拜殿に県指定文化財  
足利十五代將軍像を祀る。昭和三十二年境内  
整備のため以前の位置より北へ十二間後退させた。  
本殿の裏に当山開基 足利義兼の父、義康  
祖父、義国の墓あり。昭和五十七、八年度  
栃木県及び足利市の助成を得て株安田工務店に  
依頼して半解体修理を実施した。

真言宗大本山 鏝阿寺

左手から見たところ/左手が本殿、右手は拝殿

 [video](#)



正面は大西堂/室町時代建立



おおとりどう  
**大酉堂**（おとり様）

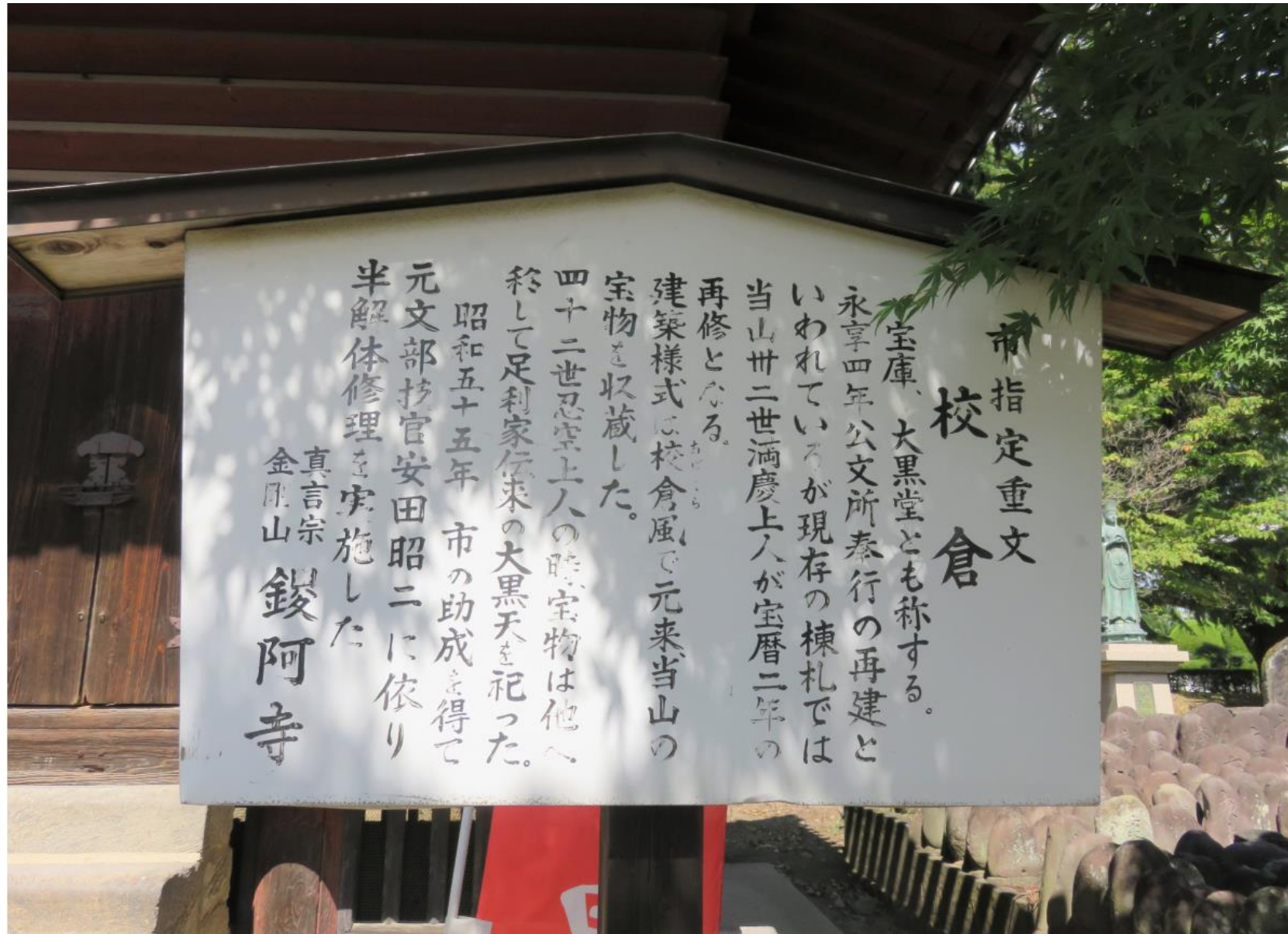
此のお堂は元来、足利尊氏へをえるお堂として、室町時代に建立された。当山に残る寛政二年及び明治五年の伽藍配置図には、足利尊氏公霊屋と現在地に記載されている。明治中期より、足利尊氏逆賊の呈国史観抬頭し、四十一世忍禅上人は、甲冑姿の尊氏公木像を、本坊に移し、当山伝来の大酉大権現を本尊とした。大正六年四十二世忍空上人は、信徒の浄財を仰いで、堂宇の大修繕を実施す。大酉大権現は俗におとり様といい、古来武神として、武門の信仰篤く、殊に東国では、近世より、商売繁昌、福の神として信仰されている。昭和六十一年、解体修理を実施した。

金剛山 鏝阿寺

こちらは足利市指定重要文化財の大黒堂（校倉）







左側面から見たところ/江戸時代の再修と云う



さて、これは多宝塔（多宝堂）/江戸時代の再建/栃木県指定文化財

 [video](#)



栃木県指定文化財

# 多宝塔 (塔婆)

開基足利義兼公創建と伝えられているが現在のものは元禄五年徳川五代将軍綱吉の母桂昌院尼公の再建と伝えられていたが相輪の宝珠を調査したところ寛永六年(一六二九年)銘のものが発見され塔の再建年代がさかのぼる事が判明した。

徳川氏は新田氏の後裔と称し、新田氏は足利の庄より新田の庄に分家したるが故に徳川氏は祖先発祥の地なるを以て、此の宝塔を祖先の菩提供養のため再建寄進した。

。本尊は 金剛界大日如来

本尊前に勢至菩薩(俗に二十三夜尊)

両側に十六羅漢像を祀る。

。奥に足利家の大位牌と徳川歴代将軍のお位牌を祀る。

。多宝塔としては我国で一番大きい。  
(これ以上大きいのは大塔という)  
平成七年半解体修理を実施した。

真言宗 金剛山 鍔阿寺

左側面から見たところ



上重は扇垂木で組物は四手先斗拱



これは多宝塔近くの南側の土塁を西方向に見たところ



反対に、東方向に見たところ

 [video](#)





さて、これは西門/栃木県指定文化財

[video](#)



そこで、土塁を北方向に見たところ



反対に、南方向に見たところ



これは土塁の北西角を見たところ



そこで振り返って、南方向に見たところ

 [video](#)



こちらは館外から見た東門/栃木県指定文化財/手前に堀が巡っている

 [video](#)





栃木県指定文化財

東門

開基足利義兼公の創建といわれるが  
永享四年(一四三二年)公文所奉行の  
再修になる。

本瓦葺、切妻造り、山脚門で形状は  
簡古、手法稚朴であり鎌倉時代の  
武家造りの剛健な風格がしのばれる。  
正和年間(一一三〇年代)の当山伽藍  
配置図にも東西の両門が描かれて  
いる。

昭和三十三年、国の助成を得て  
文部技官空正夫の指導で解体修理を  
実施した。

真言宗  
金剛山 鏖阿寺

土塁に並行する堀を見たところ





振り返って見たところ



参考ホームページ

<http://www.ashikaga-bannaji.org/>

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/184416>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/135/index.html>

<https://tabi-mag.jp/tg0082/>

<https://chikuhobby.com/tera/bannai/>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Tg03.html>

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/009tochigi/033ashikaga/ashikaga.html>

[http://shanehashi.html.xdomain.jp/Oshiromeguri/Kanto/Ashikagashi\\_kan.html](http://shanehashi.html.xdomain.jp/Oshiromeguri/Kanto/Ashikagashi_kan.html)

<https://ckk12850.exblog.jp/17325385/>

